

※新聞記事のレイアウトを一部変更しております。

**【質問】** 肺がんの特効薬が保険医療を崩壊させるかもしれないといわれていますがなぜでしょうか。(65歳 男性)

## 高価ながん特効薬

**【回答】** 免疫チェックポイント阻害薬と呼ばれる「オプジーボ」という、今までにない画期的ながん治療薬が2年前に一部の皮膚がん、昨年12月に肺がんの治療薬として保険承認されました。

この薬はがん細胞を直接攻撃するのではなく、人に備わる免疫の働きを促す「がん免疫療法」で、手術、放射線、化学療法に次ぐ「第4のがん治療」と期待されています。実はこの機序は



に1年で約3500万円、約5万人の肺がん患者が使うと年間1兆7500億円

## 利用者増え財政圧迫

日本人の研究者が発見したもので、ノーベル賞をもらったのではないかと噂されています。

末期の肺がん患者と比較すると、既存の抗がん剤の奏効率は1割程度なのに、対して、本剤の奏効率は2割と有効性を認めました。ただし、画期的ゆえに高額な薬であり、一人の患者

人ほどの使用で採算が合うように薬価が決められました。しかし、昨年12月に肺がんにも適応が認められたため、その利用対象者が飛躍的に増加しました。今後の研究で他のがんにも効果があると分かれば、さらにその対象者は増えていくで

## オプジーボ 特例で来年2月値下げ

しょう。

となると、この薬剤により医療費はさらに増大し、保険財政を圧迫することは明白です。そこで2年に1度の薬価改定を待たずに、特例として来年2月、50%の引き下げを行うことが緊急に決定しました。

その一方で、政府は成長戦略の手段として新薬開発

を掲げています。開発に見合うだけの薬価がつかなければ、企業は開発意欲をなくしてしまいます。爆発的に売れる可能性が少ない希少疾患に対する薬剤の開発も行われなくなるかもしれません。そうになると、病気に苦しむ人々にとっては不幸な結果となりかねません。

科学の進歩により、今後、まだまだ高額な薬剤や医療機器が開発されてきます。

そのような時、患者や開発する企業にメリットがあり、保険財政を圧迫しないような診療報酬の制度を、しいては、皆さんの健康を守る国民皆保険を守る制度をつくりあげることが大切です。(県医師会)

### 質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。